

アトリエ 琉游舎 だより 166号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

2023年11月22日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

虹始見 虹蔵不見

●暦では24節気清明の末候、4月5日頃を虹始見（にじはじめてあらわる）と呼び、小雪の初候11月23日頃を虹蔵不見（にじかくれてみえず）と呼びます。春が本格的となる4月の初旬から虹のシーズンが始まり、晩秋になると虹が見られなくなると言うこと。虹の店仕舞いです。

●虹が見られる条件には3つあるそうです。1. 日差しが十分に強いこと、2. 雨上がりで空気中に十分な水分があること、3. 太陽の位置があまり高すぎないことの3条件のようです。雨上がりの後に急に日が差してしかも太陽が真南でない午前中の早い時間か午後の遅い時間になります。夏の夕立の後に見られる虹が典型的な虹と言うことになりそうです。

●虹シーズン最後に見られるはずの、晩秋から初冬の時雨の時に現れる「時雨虹」は今年は見られるでしょうか。「時雨虹」が見られたらそろそろ冬支度ですが、11月の初旬まで続いた夏日は10日を過ぎた途端に秋を通り越して一気に冬のような気温になりました。春と秋が短く夏と冬が6ヶ月おきに繰り返すというような単純な季節の変化に変わってしまったようなこの数年の気候では、このまま数年たつと紅葉も見られなくなるかも知れません。実際夏の暑さのダメージで、色が変わる前に落葉してしまう葉っぱが今年が多いように感じられます。

●虹は先ほどの3条件が揃えばどこでも見ることができます。雨上がりに空を見上げれば、ビルの谷間でも山の頂上でも虹を見ることができるでしょう。ただ空を見上げる習慣が最近の私たちには少なくなってきたようです。雲の動きを見て天気を知り、太陽の位置を見て進む方向を定め、夜空を見て限りない宇宙に思いを馳せる。空が生活の羅針盤であった時代から、今は衛星で監視され、ミサイルやドローンが飛来する時代になってしまったようです。

新年祝祷会 1月1日（月）10時半 琉游舎にて

11月・12月スケジュール			木	金	土	日
			23 映画会 お休み	24	25	26
27	28 読書会 13時半から	29	30 映画会 13時半から	12月1日	2	3 写経会 13時半から
4	5 読書会 13時半から	6	7 映画会 お休み	8	9	10
11	12	13	14 映画会 13時半から	15	16	17
18	19 読書会 13時半から	20	21 映画会 お休み	22	23	24

読書会
11月28日
12月5.19日
(火) 13時半

写経会
12月3日
(日) 13時半

映画会
11月30日
12月14日

一旦休止していたことを再開するには大変なエネルギーを要すると思われます。理由があって継続していたことが、何らかの理由で休止を余儀なくさせられ、休止の理由が消滅したと思われるのでまた再開しようということになるはずですが、再開の決断は休止期間の人それぞれの事情の変化でなかなか判断が難しいだけでなく、意欲の持続やノウハウの継承などの問題が、このコロナ禍の3年間に顕在化したことを思わずにはいられません。3年ぶりに再開した各地のお祭りで事故が続出しているようです。3年も経てば人は進学も就職も退職もし、病気にもなり亡くなる人もあるでしょう。そのような人の入れ替わりの中で、技術と精神が確実に伝承されていくことの困難さを考えれば、逆に継続することの重要性が明らかになってきます。

昨年のお諏訪の御柱祭は以前当欄で報告しました。祭り精神、つまり“何を願ってこの祭りがあるのか”の根本、御柱を氏子たちが山から里まで力を合わせて3日間で引いていく祭事が中止となりトラックで御柱が運ばれて行きました。この「山出し」期間にはいくつかの難所があります。「木落とし」「川越し」などは相当の技術と経験を要するので、そのノウハウが継承されなければ事故は容易に起こり得るのです。7年おきのこの祭りは最後に行われてから次回再開までに「山出し」に関する12年間の空白があります。技術は映像やマニュアルで残してあとで学習することはできるでしょう。しかし精神は記録ではなかなか伝えられません。経験や口伝でしか伝承できないものがあると考えます。私は受け継がれたことは一人でもそれを必要としている人がいればそれを誰かに引き継いでいくことが、永遠のいのちを繋ぐ者の役目のひとつと考えています。

昨年の11月20日で私の日記は中断されています。退職して矢板の地コリーナに居を定めてから、日々の備忘録代わりに書き始めた3年連用日記は2冊目の最後の月に達しようかという直前から今日まで一年間空白のままです。日記は翌日の朝勤の後に前日分を記録することを日課にしていた私は、20日分を記載してわずか数時間後に発症し命の危機に直面しました。幸い高度な医療技術と迅速な救急チームの対応で今まで命を長らえることができている。自分の書いた日記は畑の種まきや収穫の時期を確認する以外読み直すことはなかったのですが、今回は直前まで何をしていたのかを読み直してみました。前々日の土曜日は片岡駅前のイルミネーション作り、午後からは亡くなった同級生のメモリアルイベントの準備、一週間後の「九尾の狐パワースポットマラソン大会」の運営準備、日曜は朝からイベント本番、合間に友人の市会議員と医師から今後の活動に資するためのヒアリング、そしてイベントの後片付けをして帰宅と記されていました。今考えれば盛りだくさんの活動で走り回っていたようですが、忙しいとか負担だという感覚はなかったように記憶しています。ただ、ここに記載されたどれもが日記の休止と共に未だに休止されたままという事実で正直驚きました。日々をありのままに生きることが私の行いと信じて過ごしてきたわたしは、単なる日記の中断だけでなく、行いのいくつかを昨年の21日を境に中断していたのです。私は記録の中断と共に私自身のいのちを繋ぐこと(行い)の一部をも中断していたということです。書くこと、記録することもそのまま日々の行いであり、私自身のいのちを私自身の明日に繋ぐということであることに、今気づくこととなりました。

法華経の本仏は久遠実成の釈迦牟尼仏です。久遠とは永遠の過去、永遠の未来、永遠の現在であるということです。経文では過去・現在・未来の三世を已(過去)・今(現在)・当(未来)と表記します。私たちの慣れ親しんだ時の概念からすれば、已・今・当の三世が永遠であるという考えは受け入れることは困難なことでしょう。例えば通常の時間観は私が今ある現在を点とすると、その点から左には過去の歴史があり、その点から右へは未来の明日が繋がっていると見ることができます。過去は事実として実在しその事実の延長線上に未来が存在することが明らかなこととして、現在を受け入れるという時間観ではないでしょうか。直線的平面的あるいは2次元的時間観です。一方法華経の時間観は私の有る今が過去であり未来でありそれは永遠であるのです。私の今に垂直に未来と過去が包括される立体的3次元的時間。縁起の法則に従い今が過去となり未来となる無常の「時」です。その時間を具現化している存在が久遠実成の釈迦牟尼仏です。今ある私は時間の流れのある一点に在るのではなく、私自身の中にある過去も現在も未来も永遠のいのちとしてありのままに受けとり、久遠そのものになることが仏の道を歩むということであり、永遠のいのちを繋ぐということ。久遠実成の釈迦牟尼仏を私の時間の中に取り込み自体(已・今・当)となることです。

法華経の時間観を生きること、特別な修行や論理、特定の信仰や思想は必要ありません。ただ日々をつつがなく平穏に安心して過ごすことを願うその願いのままに生きること。それが私自身のいのちを様々な永遠のいのちに繋いでいくことです。これは私のいのちと他者のいのちが共棲するという。人それぞれの已・今・当が久遠実成の釈迦牟尼仏と自体になった喜びと共に各々の歩き方で道のりを歩んでいくことで、各々の永遠のいのちが繋がりが合い、日々を安らかに豊かにありのままに生きていくことができるのです。

私は1年前に中断していた日記を11月21日から再開することにしました。それで何が始まるわけでも変わるわけでもありませんが、法華経の時間観を生き続けるためには再開が必要と考えたからです。「已・今・当」の時間を生き続けるためには発症した過去を悔まず恨まず拘らず、その「已」と共棲して「今」をありのままに観て「当」に向かって歩み続けることが法華経の時間を生きることだと、中断直前の日記を「今」に引き当てて読むことが出来たからです。過去を悔み恨めば未来はその後悔に復讐することが必要になることだと、最近の中東やウクライナの戦乱を見て思い至ったことも、また日記を再開し改めて2次元の直線的時間ではなく法華経の永遠の時をあゆみ続けねばと思いついた日記再開の理由のひとつです。